第40号

平成23年3月

大山隠岐国立公園　浄土ヶ浦海岸（隠岐の島町）

Nature of Shimane

しまねの自然

目次 CONTENTS

【特集1】中海・宍道湖ラムサール条約登録5周年記念事業… 2
【特集2】指定希少野生動植物の初指定…… 3
【選定地域】金言寺の大イチョウ…… 3
【自然観察会】水辺の観察会　他…… 4～5
【動植物保護】ミナミアカヒレタビラ保護活動…… 5
【表彰】自然保護関係表彰受賞者の紹介…… 6
【指導員報告】恐竜と人類の違い…… 6
【小豆原埋没林】教科書に載った巨大地底林…… 7
【制度改正】自然公園法・県立自然公園条例の改正…… 7
【事業紹介】中国自然歩道の整備…… 8
自然公園施設の整備…… 8
ボランティア整備事業…… 8

発行／島根県自然公園協会

〒690-8501島根県松江市殿町1番地 島根県自然環境課 Tel.0852-22-6172 Fax.0852-26-2142

『中海・宍道湖ラムサール条約登録5周年記念事業』を島根・鳥取両県が連携して開催!

中海と宍道湖は、島根県東部に位置する我が国最大の汽水域で、平成17年にラムサール条約湿地にそれぞれ登録され、昨年の11月で5周年を迎えました。そこで、5年間の取り組みを振り返ると共に、「環境保全」と「賢明な利用」に関する県民理解をさらに深めるため、両県が連携して記念事業を開催しました。

平成22年10月2日から8日間、島根県松江市において「中海・宍道湖を知る、学ぶ展」を開催しました。両湖の形成過程と暮らし、生息する生き物、30～50年前の懐かしの写真、登録後の環境保全活動等について展示し、来場者に両湖の豊かな恵みと大切さをPRしました。

こども環境ミュージカル(H22.10.30)

また、10月9日には中海・宍道湖周辺のこどもたちが、韓国(慶尚南道・ウーポ沼等)のこどもたちとハゼ釣りや「湿地の宝」について意見交換し、湿地を守ることの重要性を互いに認識し合いました。

さらに、10月30日に鳥取県米子市で「次世代へつなぐ豊かな恵み」と題してシンポジウムを開催しました。地域NPOによる湿地保全の活動紹介やこども交流の成果報告、日本野鳥の会の安西主席研究員による記念講演を開催すると共に、地域に馴染み深いタレントの吉田栄作さんと松本若菜さんのトークショーや、こども環境ミュージカルを交えながら、両湖の豊かな恵みを将来に引き継ぐことの大切さを会場の皆様と一緒に考えました。

中海・宍道湖を知る、学ぶ展(H22.10.2～9)

今回の記念事業により、こどもから大人まで、幅広い世代の方々にラムサール条約の意義を改めて認識いただく良い機会となりました。

これからも引き続き、地域住民の方々、NPO、沿岸自治体等と連携し、ラムサール条約湿地の名に恥じぬよう、より一層、両湖の「環境の保全」と「賢明な利用」について取り組みます。

授業の一環として見学される小学校もありました

韓国と島根・鳥取のこども達が交流した北東アジアこども交流(H22.10.9)

指定希少野生動植物の初指定

平成22年3月に制定した「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」に基づく初の指定希少野生動植物として、ダイコクコガネとオニバスの2種を同年12月10日に指定しました。この2種は、いずれも、しまねレッドデータブックの「絶滅危惧I類」で、県内での生息地・生育地も極めて限定されており、特に保護を図る必要があるため指定しました。これにより、生きている個体の捕獲や採取が原則として禁止され、違反した場合には1年以下の懲役又は50万円以下の罰金が科せられることになります。

ダイコクコガネは、県内での生息地は三瓶山の放牧地のみで、放牧牛の牛糞に依存して生息しています。成虫は6～10月頃に発生し、夜行性のため日中は地中に潜んでいます。体長は2～3cmとカブト虫と比べると小さいのですが、食糞性コガネムシ類（糞虫類）の中では国内最大級です。また、頭部には立派な1本の角があり、標本としても非常に人気があります。放牧牛の減少や売買を目的とした捕獲などによって個体数が減少しています。

一方、オニバスは、植物全体が1～3cmほどの棘で覆われる1年生の浮葉植物で、8～9月頃には赤紫色の美しい花を咲かせます。大きいものでは葉の直径が2m以上になることもあるため、「水草の大様」と呼ばれますが、除草剤やアメリカザリガニなどの食害によってその数が減り、現在県内での自生地は松江市内のため池1箇所となりました。

この指定を機に、県民の皆様に県内にも絶滅の危機に瀕している野生動植物が生息・生育していることを知って頂き、生物多様性を保全するための取り組みを連携して進めていきたいと考えています。

ダイコクコガネ

オニバス

「みんなで守る郷土の自然」新規選定地域 ～金言寺（きんげんじ）の大イチョウ～

金言寺の大イチョウの黄葉

島根県では、地域住民の自然保護意識がいっそう高まり、継続的に保全活動が行われることを目指して、身近な生活環境の中に点在している動植物の生息生育地などの貴重な自然や、地域住民のシンボルとして親しまれている自然環境を「みんなで守る郷土の自然」として選定しています。

平成21年度は奥出雲町馬木地区の「金言寺の大イチョウ」を新たに選定しました。

この大イチョウは、樹高33メートル、幹周5.7メートルの町指定天然記念物で奥出雲町の代表的な景観スポットとなっています。

広島からエコツアーで訪れた「巨木を訪ねる会」のメンバーから「イチョウの衰弱がみられるので樹勢回復の処置が必要」との助言を受け、平成22年3月に、金言寺の大イチョウを守る会、巨木を訪ねる会など約60名が参加し、根元周辺への堆肥の敷き詰めや樹皮に着生したコケの除去などの樹勢回復作業が行われました。

毎年11月には、この大イチョウが辺り一面を黄色に染めて息をのむ美しさを魅せてくれます。是非一度、出掛けてみてはいかがですか。

高所作業車による樹皮に着生したコケの除去作業

根本周辺への堆肥の敷き詰め作業

水辺の観察会（奥出雲町）

亀嵩地区福祉振興協議会環境部は平成9年より「水辺の観察会」を継続しています。環境部員は現在10名。今年度も夏休みに地区の2つの小学校（亀嵩小学校・高田小学校）の児童と一緒に川の清掃、水生生物の調査、亀嵩川14の支流の水質調査を行いました。毎年児童のはしゃぐ顔、輝く目、驚きの様子が楽しみです。部員も水質検査の驚きの結果や講師による水生生物の解説に興味津々です。

児童が川をとても喜ぶ一方で地域の生活は川との乖離が進み、川は現在では殆ど顧みられなくなりました。かつて子供の絶好の遊び場の一つであった川が今では危険な場所となってしまいました。葦が一面に生えて川辺に近づくことも出来ません。でもこの日ばかりは大人も一緒に川に入ります。「大人が変わらなければ子供も変われない」

近年は両校の校長先生も参加してくれるようになりました。魅力ある田舎再発見を夢見ています。

川の中にはどんな生き物がいるのかな?

学芸員による解説を受けています

ウスイロヒョウモンモドキ保護活動（大田市）

ウスイロヒョウモンモドキは、日本では近畿・中国地方のみに生息する草原性のチョウです。島根県では三瓶山が唯一の生息地ですが、現在、絶滅の危機に瀕しています。平成21年3月に大田市自然環境保全条例で指定希少動植物に指定し、その保護を図っています。（ウスイロヒョウモンモドキは、自然公園法でも捕獲等が禁止されています。）

平成22年10月18日（月）に大田市志学小学校5・6年生徒、教諭並びにウスイロヒョウモンモドキ連絡会構成員の計19名で、ウスイロヒョウモンモドキ生息地である女三瓶山頂において、保護活動を行いました。参加者は、生息地となる草原の環境維持のための草刈りや、幼虫の餌となるオミナエシ200株を植栽しました。

この保護活動は、地元志学小学校生徒の自然環境教育として、毎年実施されています。

オミナエシの植栽をしています

※ウスイロヒョウモンモドキ

西日本の草原を代表するチョウのひとつ。近年急激に減少しており、環境省及び島根県のレッドデータブックで「絶滅危惧I類」に指定。

このチョウはススキ草原に生活し、幼虫はススキに混じって生えているオミナエシやカノコソウの葉や花を食べて育つ。

ウスイロヒョウモンモドキ

「安蔵寺山ブナ林自然観察会」（津和野町）

安蔵寺山（1263m）のブナの原生林において、恒例のブナ林自然観察会が平成22年6月6日（日）開催され、町内をはじめ遠くは西宮市から46人が参加しました。この観察会は、植物観察班、野鳥観察班、山頂登山班にそれぞれ分かれ、専門の講師の説明により自然の素晴らしさや知識を学べるイベントで、毎年環境月間にあわせて行われています。

植物観察班では、さまざまな植物について講師から丁寧な説明を受けた参加者が、新緑の生命力あふれる草花の美しさを十分に満喫しながら、熱心に質問してメモをとっていました。

野鳥観察班は、安蔵寺山の原生林のいたるところから聞こえるヒヨドリ、ホオジロ、カケス、ホトトギス、セキレイなど、鳥たちによる鳴き声のアンサンブルに耳を傾けながら、望遠鏡で野鳥の様子を観察しました。

山頂登山班は、大規模林道の安蔵寺トンネルからスタートし、スギやブナ、ミズナラの巨木が佇む北尾根ルートを登り、山頂からはブナの若木が茂る西尾根ルートを通って小石谷口に下山しました。初めて登った参加者は、「非常に感動した。こんなに素晴しい山があるということを、まわりの人に伝えていきたい。」と話していました。

ブナ林の中で自然観察

ミナミアカヒレタビラの保護活動

ミナミアカヒレタビラは、生息場所が限られ、また個体数も少ないことから、しまねレッドデータブックで「絶滅危惧I類」に選定されている淡水魚です。全長8cm程度で4月～6月の繁殖期には、オスの尻ヒレの外側が赤く染まって美しい姿となり、観賞魚としても人気があるため、過度の捕獲が懸念されています。

この魚を守るためには、まず地域の方々に実際に見てもらい、関心を持ってもらうことが重要です。このため、島根県では平成19年度からミナミアカヒレタビラ研究会と連携して、県内最大の生息地である大原川（大田市久手町）で、地元小学校の児童と協力して、この魚が卵を産み付ける二枚貝（ドブガイ）の生息分布調査を行っています。

ミナミアカヒレタビラ

昨年5月には、同研究会、大田市、島根県の共催で、地元住民向けの観察会を行いました。この魚の生態を説明した後、参加者25名と川の中に入り、ミナミアカヒレタビラをはじめ、オイカワ、カワムツ、メダカ、フナ類などを多数観察しました。地域住民の方々に大原川に目を向けてもらう良い機会となりました。

※ミナミアカヒレタビラは、大田市自然環境保全条例により捕獲が禁止されています。

大原川で実施した観察会

自然保護関係表彰受賞者の紹介

藍綬褒章　隠岐の島町
野　津　　大　さ　ん

大山隠岐国立公園の隠岐島地域で、長年自然公園指導員として、動植物の調査研究や自然保護活動を行い、環境保全に尽力されています。

島根県各種功労者（島根県知事）　飯南町　**赤名湿地保護育成会**

島根県自然環境保全地域である赤名湿地性植物群落の環境保全に尽力されています。

「みどりの日」自然環境功労者（環境大臣）　益田市　**田中　智　さん**

益田市中須地区の海岸マツ林を中心に地域の環境保全活動に尽力されています。

自然公園関係功労者（環境大臣）　隠岐の島町　**白島、浄土ヶ浦を美しくする会**

隠岐島（島後）の白島海岸、浄土ヶ浦の美化、清掃に尽力されています。

自然公園指導員（環境省自然環境局長）　奥出雲町　**永濱哲夫　さん**

船通山や吾妻山等を中心に長年自然公園指導員として活動されています。

環境保全功労者知事感謝状　松江市　**宮廻茂美　さん**

県東部の自然公園を中心に島根県自然保護レンジャーとして活動されています。

松江市　**里山を育てる会**

「田和山の森」の保全活動を行うとともに、自然環境保護の意識啓発をされています。

恐竜と人類の違い　自然公園指導員　野津　大

隠岐諸島は2009年10月に「日本ジオパーク」に認定された。その頃から、隠岐の岩石地質を調べることが大変多くなった。隠岐には日本最古の「隠岐片麻岩」がある。どんな時代にできたかを調べて驚いた。

隠岐片麻岩は、約3億年前から約6000万年前の間にできているが、できる活動のピークは2億5000万年前である。その頃、地球上に一つだけあった大陸（パンゲア）が大規模な火山噴火により分裂した。すさまじい噴火の中で二酸化炭素濃度は、一気に2倍以上になり、平均気温を5℃も押し上げた。

この時代に、運良く生き延びた生物には飛躍のチャンスが与えられた。は虫類から恐竜やほ乳類が進化し、新しい生態系を作った。

西本昌司著『地球の仕組みと生命進化の46億年』には、「現在の生物絶滅速度は、恐竜が衰退していた7000万年前に比べて、1000倍から1万倍になるといわれており、一日に100種の生物が絶滅している。地球の歴史の中で最大級の大量絶滅時代だ」と書いてある。　過去の大量絶滅と違うのは、人類の活動が多くの原因であるということだろう。地球のドラマは、リーダーとも呼ばれる人類によって、大きな転機を迎えた。地球を守ることに視点を置くと、恐竜と人類ではどちらが優れているのだろうか。

日本最古の「隠岐片麻岩」　隠岐の島町飯美で撮影

教科書に載った巨大地底林（三瓶小豆原埋没林）

2004年2月に国の天然記念物として指定された「三瓶小豆原埋没林」が小学生理科の教科書（啓林館）に「中国地方における貴重な地層・地質」として掲載されました。

さて、この埋没林、約4千年前に大自然の力で地中に閉じこめた巨大なスギ林が「真空パック状態」で地中に保存されていたものですが、天然記念物の指定基準は「植物」ではなく「地質鉱物」となっています。

なぜ「地質鉱物」なのでしょう?

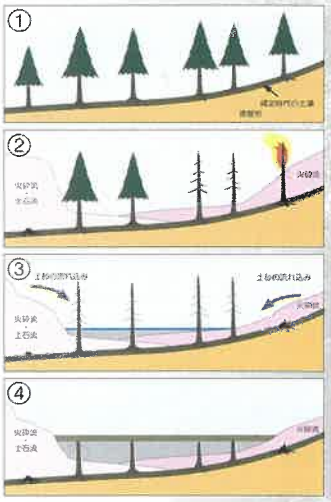
その理由は、「三瓶小豆原埋没林」が三瓶山の噴火に伴う土石流や火砕流などの堆積物によって形成されたもので、火山国である日本を代表する重要な自然現象として認められたからなのです。

また、2009年5月には、日本の地質百選（日本の地質百選選定委員会）にも選定され、日本を代表する地質として認められています。

このように、「三瓶小豆原埋没林」は、日本で30カ所以上確認されている他の埋没林と比較しても極めて貴重な例であり、その規模と保存状態（縄文時代後期の森林の姿をそのままにとどめている）、形成過程において世界的に見ても類例のない埋没林です。

世界遺産ではありませんが、島根県が世界に誇れる貴重な自然遺産として全国に誇れる郷土の宝物なのです。

火砕流に飲み込まれたスギの巨木



埋没林ができるまで

自然公園法及び県立自然公園条例の改正

平成20年に生物多様性基本法が制定されるなど、近年、生物の多様性に対する国民の関心がきわめて高まっており、豊かで多様な自然環境が守られている自然公園でも、より積極的に生物の多様性の確保に寄与することが求められていることから、自然公園法が改正され、平成22年4月1日に施行されました。

自然公園法の改正の概要

(1) 目的規定の改正

法の目的に「生物の多様性の確保に寄与すること」を追加。

(2) 海域における保全施策の充実

海中の景観を維持するための海中公園地区を、海上を含む海域全体を対象とする海域公園地区に改める。

従前の海中公園地区は、法施行後は海域公園地区となる。

(3) 生態系維持回復事業の創設

他地域から進入した動植物による在来動植物の駆逐や食害を防ぐため、国立・国定公園内の生態系の維持又は回復を図ることを目的とした生態系維持回復事業制度を創設。

(4) 特別地域等における行為規制の追加

生態系へ被害を及ぼす動植物の放出等や、一定の区域内での木竹の損傷について規制を追加。

(5) その他

公園事業が適切に執行されるよう監督機能を強化するため、公園事業の執行に関する規定について法に規定し、同規定に違反した場合の罰則を追加

県立自然公園条例の改正

自然公園法の改正をの趣旨を踏まえ、県立自然公園条例についても法に準じた改正を行いました。（平成23年4月1日施行）

ただし、海域公園制度及び生態系維持回復事業については県立公園には該当する地域が無いことや事業の想定が無いことから取り入れませんでした。

中国自然歩道新ルート案内板及び指導標整備

中国自然歩道は、自然の中を歩きながら地域の豊かな自然や歴史、文化に親しんでもらい、あわせて自然保護に対する意識も高めてもらおうという趣旨で、環境省が路線決定し、県や市町村が整備・管理する歩道です。

浜田海岸コース案内板

鰐淵寺・大社・立久恵コース指導標

島根県では、より魅力ある歩きやすい歩道となるよう平成21年10月に路線変更を行い、新ルートの案内板や指導標の整備などを行っています。

新しい自然公園施設が完成しました

三瓶山山頂にある避難小屋は、老朽化のため閉鎖していましたが、平成22年11月にに島根県が避難小屋を立て替え、供用を開始しています。

嵩山は、宍道湖北山県立自然公園内にある標高330mの山で、駐車場や登山道が整備されており、季節を問わず多くの人に親しまれています。

これまで、登山者用の公衆トイレがなく不便でしたが、平成22年春、駐車場にトイレを新築しました。

無理をせず安全な登山を楽しんでください。

三瓶山頂避難小屋

嵩山公衆トイレ

ボランティア整備事業

荒神谷・加茂岩倉モデルコースを整備しました。

中国自然歩道荒神谷・加茂岩倉モデルコースは、荒神谷史跡公園から出雲観音霊場代札所でもある蓮台寺、光明寺を経由して加茂岩倉遺跡を結ぶ、歴史的魅力と自然美にあふれるコースです。このうち、平成21年に中国自然歩道として新たに組み込まれた斐川町学頭と加茂岩倉遺跡を結ぶ区間は、地元の方々により管理されている里道ですが、一部に勾配が急で滑りやすい箇所や、歩道の路肩が崩れた箇所がありました。そこで平成22年11月21日に「雲南市自然とふれあう会」が開催され、ボランティアによる、木製階段、木橋の設置、歩道の整地が行われました。当日は、早朝からの作業にも関わらず、23名の参加があり、遠くは江津市、浜田市からもお越しいただきました。晴天の中行われた作業は、資材の運搬などの重労働もありましたが、参加者のみなさんの手際のよさから、半日ほどで完成。歩道はずいぶん歩きやすいものになりました。今後多くの方に散策を楽しんでいただけるものと期待しています。

勾配が急な箇所に木製階段を設置

歩道が崩れた区間に木橋を設置し、安全に通れるようになりました

表紙写真：浄土ヶ浦　島後の北西に位置し、1Kmにおよぶ海岸線は大小多数の島々や岩礁が散在し、潮風に耐えた古松のたくましい姿や、赤褐色の多島海岩風景は見る者を魅了します。地形・地質の多様性に富んでいる隠岐諸島は、平成21年に日本ジオパークに認定され、今後、世界ジオパークへの認定が期待されています。